



# 64-bit Microsoft® Windows® (Itanium)版 SAS® 9.1.3 Foundation 設定ガイド



## 著作権情報

このマニュアルの正確な書籍情報は、以下のとおりです。

### **Post-Installation Guide for SAS® 9.1.3 Foundation on Microsoft® Windows® for 64-bit Itanium-based Systems**

Copyright © 2007, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA.

本書は、発行元であるSAS Institute, Inc.の事前の書面による承諾なく、この出版物の全部あるいは一部を、電子データ、印刷、コピー、その他のいかなる形態または方法によって、複製、転送、または検索システムに保存することは禁止されています。これらの説明書は著作権により保護されています。

著作権保護を受ける本書の使用の範囲は制限されています。許される使用の範囲とは、使用者のシステムに保存して端末に表示すること、本書が提供された目的である、SAS プログラミングおよびライセンスプログラムのインストール・サポートの責任者が使用するために、必要な部数だけコピーすること、および特定のインストール要件を満たすように内容を修正することを指します。本書の全部あるいは一部を印刷する場合、またはディスプレイ媒体に表示する場合は、SAS Instituteの著作権表示を明記する必要があります。上記の条件以外で本書を複製または配布することは一切禁止されています。

#### **アメリカ合衆国政府の制約された権限についての通知**

アメリカ合衆国政府による、本ソフトウェアおよび関連するドキュメントの使用、複製、公開は、「FAR52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights」（1987年6月）に定められた制限の対象となります。

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

SAS®およびSAS Instituteのプロダクト名またはサービス名は、米国およびその他の国におけるSAS Institute Inc.の登録商標または商標です。

®は米国で登録されていることを示します。

その他、記載されている会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

# 64-bit Microsoft Windows (Itanium) 版 SAS 9.1.3 Foundation 設定ガイド

## 目次

設定ガイドについて	v
<b>第 1 章 SAS/ACCESS Interfaces</b>	<b>1</b>
SAS/ACCESS Interface to Oracleの設定	1
Oracle Serverのデフォルトパスの割り当て	1
SAS/ACCESS Interface to ODBCの設定	1
SAS/ACCESS Interface to R/3 の設定	2
SAS/ACCESS Interface to SAP BWの設定	2
<b>第 2 章 SAS/ASSISTの設定</b>	<b>3</b>
マスタープロファイルの追加	3
<b>第 3 章 SAS/CONNECTの設定</b>	<b>5</b>
SAS/CONNECTスクリプトファイルの保存と配置	5
64-bit Windows環境におけるTCP/IPアクセス方式のシステム設定	5
SAS Windowsスポーナプログラムの設定	5
<b>第 4 章 SAS Enterprise Minerの設定</b>	<b>7</b>
Enterprise Miner Serverのインストール	7
Enterprise Miner Serverの設定	7
デフォルトデータライブラリの設定	7
Enterprise Miner Clientの設定のための情報を提供	7
Enterprise Miner 4.3 Clientの起動方法	8
クライアント/サーバープロジェクト用Enterprise Miner Clientの設定	8
Enterprise Miner C*Score用SASスタンドアロンフォーマット	8
<b>第 5 章 SAS Integration Technologiesの設定</b>	<b>9</b>
<b>第 6 章 SAS/IntrNetの設定</b>	<b>10</b>
<b>第 7 章 SAS IT Service Level Management 2.1 のインストール</b>	<b>11</b>
<b>第 8 章 メタベース機能の設定</b>	<b>12</b>
システムリポジトリマネージャファイルの設定	12
リポジトリマネージャでのSASHELPリポジトリの登録	13
SAS 6 のSAS/EISメタベースをSAS 8 のリポジトリに変換する	13
<b>第 9 章 NLS (National Language Support) の設定</b>	<b>14</b>
中国語、日本語、韓国語のDBCSサポート	14

デフォルトのDBCSLANGとDBCSTYPEオプション設定の変更-----	14
Unicodeサーバーのための構成ファイルの変更-----	14
アジア言語用フォントカタログ-----	14
中国語繁体字フォントのインストール-----	15
中国語繁体字フォントのための構成ファイルを使用したフォントカタログの指定-----	15
中国語繁体字フォントのためのSASセッションを使用したフォントカタログの指定-----	15
ヨーロッパ言語サポート (ELS) -----	15
SAS 9.1.3 におけるロケールの設定-----	15
デフォルトのLOCALEオプション設定の変更-----	16
異なるロケールでSASを実行する-----	16
追加情報-----	17
リモートサーバーでのロケールの設定-----	17
SAS/GRAPHのためのDevmapとKeymap-----	18
<b>第 10 章 SAS OLAP Serverの設定-----</b>	<b>20</b>
Open OLAP Client for SAS/MDDDB Server 3.0-----	20
SAS OLAP Cube Studio-----	20
SAS管理コンソールのSAS OLAP Server Monitor-----	20
<b>第 11 章 SAS/SECUREクライアントコンポーネントのインストール-----</b>	<b>21</b>
SAS/SECURE for Windows Clients-----	21
SAS/SECURE for Java Clients-----	21
<b>第 12 章 SAS/SHAREの設定-----</b>	<b>23</b>
TCP/IPアクセス方式のシステム設定-----	23
必要なソフトウェア-----	23
TCP/IP SERVICESファイルを使用したサーバー名の定義-----	23
クライアント側のコンポーネント-----	24
SAS/SHAREデータプロバイダ-----	24
SAS ODBCドライバ-----	24
JDBC用SAS/SHAREドライバ-----	24
C言語用SAS/SHARE SQLライブラリ-----	24
NLS情報-----	25

## 設定ガイドについて

このドキュメントは、サーバーサイドのBase SASと、さまざまなSASプロダクト（使用するプロダクトはサイトによって異なります）によって構成されるSAS 9.1.3 Foundationの設定方法を解説しています。ミドル層とクライアント層のプロダクトに設定方法についての情報は、SAS Software Navigatorから参照できます。

このドキュメントに含まれているサーバーサイドの設定手順は、一般的なSASサーバーのための解説です。

- OLAP、Workspace Server、Stored Process Serverの設定に関する詳細は、『SAS Integration Technologies: Server Administrator's Guide』を参照してください。
- メタデータサーバーの設定に関する詳細は、『SAS 9.1.3 Intelligence Platform: System Administration Guide』を参照してください。

このドキュメントは、次のWebサイトから入手できます。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/installcenter/configuration/index.html>



# 第 1 章 SAS/ACCESS Interfaces

## SAS/ACCESS Interface to Oracle の設定

SAS/ACCESS Interface to Oracleをインストールするためには、以下のプロダクトが必要です。

- Base SAS
- SAS/ACCESS Interface to Oracle
- Oracle Server Release 8.1.7以降
- Oracle Client, Release 8.1.7以降

### Oracle Server のデフォルトパスの割り当て

PATHステートメント/フィールドを指定せずにSAS/ACCESSを使用すると、定義済みのデフォルトのパスが使用されます。

次の操作を行います。

- 1 Windowsのレジストリエディタ (REGEDIT) を起動します。
- 2 HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Oracleを選択します。

**注意：** ORACLE8iクライアントを使用している場合は、HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Oracle¥HOME0を選択します。

- 3 メニューから [編集] - [新規作成] - [文字列] を選択します。
- 4 [新規値] に「LOCAL」と入力し、メニューから [編集] - [変更] を選択します。
- 5 [値の名前] フィールドに「Local」と表示されます。
- 6 表示されたダイアログ ボックスの [値のデータ] フィールドに、接続文字列を入力します。
- 7 [OK] を選択します。

SAS/ACCESS Interface to ORALCEについての詳細は、『SAS/ACCESS 9.1 for Relational Databases: Reference』のOracleに関する章を参照してください。

## SAS/ACCESS Interface to ODBC の設定

SAS/ACCESS Interface to ODBCをインストールするためには、次のプロダクトが必要です。

- Base SAS
- SAS/ACCESS Interface to ODBC
- アクセスするデータソース用の64ビットODBCドライバ

ODBCで標準のインターフェイスを定義することにより、さまざまなデータソースを利用することができます。SAS/ACCESS Interface to ODBCはODBCドライバと共に使用することで、さま

さまざまなデータベースにアクセスできます。ODBCドライバはODBC関数の呼び出しを受け付け、結果をSAS/ACCESSに返します。ODBCドライバは、Microsoft社やデータベースのベンダー、サードパーティのベンダーから入手できます。

SAS/ACCESSを64-bit Windowsで実行するには、64ビットドライバが必要です。SAS/ACCESSソフトウェアはドライバマネージャを呼び出し、それを受けてドライバマネージャは64ビットドライバを呼び出します。

ODBCドライバマネージャとODBCデータソースアドミニストレータは、すべてのODBCドライバに付属するMicrosoft社の製品です。ODBCドライバをインストールするときに、ODBCドライバマネージャとODBCデータソースアドミニストレータも同時にインストールされます。ODBCデータソースアドミニストレータのアイコンは、コントロールパネルの中にあります。また、スタートメニューの中にアイコンがある場合もあります。

ODBCドライバをインストールすると、ODBCデータソースアドミニストレータを使用してデータソースの定義や管理ができるようになります。データソースはODBCドライバと、それによってアクセスされるデータを関連付けます。データソースにはアクセスされるデータとそれに関連するオペレーティングシステム、DBMS、DBMSへのアクセスに使用されるネットワークプラットフォームの情報が含まれます。データソースの設定方法は、ODBCドライバに付属する説明書を参照してください。

SAS/ACCESS Interface to ODBCについての詳細は、『SAS/ACCESS 9.1 for Relational Databases: Reference』のODBCに関する章を参照してください。ODBCについての詳細は、『Microsoft ODBC 3.0 Programmer's Reference and SDK Guide』を参照してください。

## SAS/ACCESS Interface to R/3 の設定

SAS/ACCESS Interface to R/3を使用するには、非常に多くの設定が必要です。インストールの手順と設定についての詳細は、SASに同梱されている『Installation Instructions for SAS/ACCESS 4.2 Interface to R/3』を参照してください。

## SAS/ACCESS Interface to SAP BW の設定

SAS/ACCESS Interface to SAP BWを使用するには、非常に多くの設定が必要です。インストール手順と設定についての詳細は、SASに同梱されている『Installation Instructions for SAS/ACCESS Interface to SAP BW』を参照してください。



## 第2章 SAS/ASSISTの設定

この章では、オプションのマスタープロファイルをSAS/ASSISTに追加する方法について説明します。マスタープロファイルを使用すると、デフォルト設定を変更できます。これにより、SAS/ASSISTの設定をカスタマイズできます。また、すべてのSAS/ASSISTユーザーのプロファイルオプションをまとめて操作することができます。プロファイルオプションについては、『SAS/ASSIST Software Administrator's Guide』を参照してください。

### マスタープロファイルの追加

SAS/ASSISTにマスタープロファイルを追加するには、次の操作を行います。

- 1 すべてのユーザーに読み込み権限のあるディレクトリを作成して、マスタープロファイルの場所を指定します。

このディレクトリに書き込み権限のあるユーザーは、SAS/ASSISTのマスタープロファイルへの書き込みができます。システムの命名規則に従ってディレクトリ名を指定します。このディレクトリ名はSASHELPライブラリにあるエントリに保存されます。そのため、SASHELPライブラリへの書き込み権限も必要となります。

[エディタ] ウィンドウの1行目に、マスタープロファイルディレクトリの物理パス名を入力します。Saveコマンドを使用して、これをSASHELP.QASSISTカタログに保存します。

例：

```
SAVE SASHELP.QASSIST.PARMS.SOURCE
00001 S:¥SAS¥ASSIST¥PARMS
00002
00003
```

マスタープロファイルの場所が、SAS/ASSISTによって認識されるようになります。

- 2 マスタープロファイルを作成します。

SASHELP.QASSIST.PARMS.SOURCEに存在する物理パス名が保存されていて、SAS/ASSISTを起動したユーザーに、その物理パス名への書き込み権限がある場合、SAS/ASSISTが最初に起動したときにマスタープロファイルが作成されます。

- 3 SAS/ASSISTを起動します。[設定] - [プロファイル] - [マスター/グループ] を選択して、マスタープロファイルをカスタマイズします。

マスタープロファイルが保存されているSASライブラリの書き込み権限を持っていると、デフォルトの設定を変更することができます。初めてSAS/ASSISTを使用するユーザーは、この設定をデフォルトとして使用するようになります。

**注意：** [状況] に「R」と入力して値を制限した場合、ユーザーはその設定を変更できません。

SAS/ASSISTは、ワークプレスとブロックメニューの2つのスタイルで実行できます。ブロックメニューには、新しいスタイルと古いスタイルがあります。これらは以下のプロファイルオプションで設定できます。

ワークプレスで実行する場合：

ASSIST のスタイル： Workplace

新しいスタイルのブロックメニューで実行する場合：

ASSIST のスタイル： Block Menu

終了時の選択の保存： Yes

メニューのスタイル： New

古いスタイルのブロックメニューで実行する場合：

ASSIST のスタイル： Block Menu

終了時の選択の保存： Yes

メニューのスタイル： Old

マスタープロファイルにデフォルト値を設定すると、ユーザーがSAS/ASSISTで使用するスタイル（新しいスタイル、または古いスタイル）を管理することができます。その他にも、多数のプロファイルオプションが存在します。プロファイルオプションについては、『SAS/ASSIST Software Administrator's Guide』を参照してください。

#### 4 グループプロファイルを作成します。

マスタープロファイルでは、グループプロファイルを作成して、あるグループのユーザーを違う設定にすることができます。マスタープロファイルは、グループプロファイルと、グループに属していないユーザーのユーザープロファイルを管理します。オプションの状況が「R」になっているときは、すべてのユーザーはマスタープロファイルによって間接的に管理されます。

[設定] - [プロファイル] - [マスター/グループ] を選択し、画面上部のメニューバーから [ツール] - [グループプロファイルの作成] を選択します。ユーザーをグループプロファイルに追加するには、[ツール] - [ユーザーグループの更新] を選択します。デフォルトでは、ユーザーIDがマクロ変数&SYSJOBIDに保存されます。この変数名はマスタープロファイルのオプションユーザーIDで設定されます（オプションタイプはシステム管理です）。ご自分のサイトでユーザーIDを他の変数に保存する場合は、変数名を変更してください。変数名が&で始まる場合は、マクロ変数です。その他の場合は、SASが起動する前に設定されたSAS環境変数です。

## 第3章 SAS/CONNECTの設定

64-bit Windows版SAS 9.1.3で対応するアクセス方式は、TCP/IPです。その他のシステムに対応するアクセス方式については、『Communications Access Methods for SAS/CONNECT and SAS/SHARE Software』を参照してください。このドキュメントは、次のサイトから入手できます。

<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/>

**注意：** Windows IP (64-bit) では、APPCはサポートされません。

### SAS/CONNECT スクリプトファイルの保存と配置

SAS/CONNECTには、サンプルスクリプトファイルがいくつか用意されています。SAS/CONNECTはこれらのスクリプトファイルを使用して、リモートSASセッションとの接続を開始します。

SASSCRIPTシステムオプションには、SAS/CONNECTスクリプトファイルの場所が設定されています。SASSCRIPTシステムオプションは、SAS/ASSISTで使用されます。また、ユーザー作成のSCLプログラムでも使用できます。

Windows版SASでは、デフォルトでスクリプトファイルが!SASROOT¥CONNECT¥SASLINKディレクトリに保存されています。SAS/CONNECTインストール時に、次の1行がSASV9.CFGファイルに追加されます。

```
-SASSCRIPT !SASROOT¥CONNECT¥SASLINK
```

スクリプトファイルを他のディレクトリに移す場合は、ご使用のSASV9.CFGファイルを編集してSASSCRIPTシステムオプションに新しいディレクトリ名を指定してください。また、DMSEXPモードでメニューバーから、[ツール] - [オプション] - [システム] - [通信] - [ネットワークと暗号化] を選択しても、このオプションを変更することができます。

### 64-bit Windows 環境における TCP/IP アクセス方式のシステム設定

TCPアクセス方式として、SAS/CONNECTソフトウェアでは、Microsoft社のWindows TCP/IPシステムドライバをサポートします。

### SAS Windows スポーナプログラムの設定

スポーナプログラムは!SASROOTディレクトリにあり、いつでも手動で実行することができます。installオプションを使用してSPAWNER.EXEを実行すると、スポーナプログラムをWindows サービスとして実行できます。デフォルトでは、スポーナプログラムがsecurityオプションを使用して実行されるようにインストールされます。Windows スポーナプログラムと、サポートされるオプションについての詳細は、『Communications Access Methods for SAS/CONNECT and SAS/SHARE Software』を参照してください。

**注意：** 以前のバージョンのSASに添付されているSPAWNERをサービスとして登録したままSASをSAS 9.1.3 Foundationにアップグレードし、そのまま実行すると問題が発生する可能性があります。既存のスポーナを停止し削除するようにしてください。その後、SAS 9.1 CONNECTスポーナをWindowsサービスとしてインストールしてください。

デフォルトでは、スポーナプログラムがWindowsサービスとしてインストールされている場合、スポーナを実行するのに必要なすべてのユーザー権限を持ったローカルシステムユーザーIDで実行されます。スポーナプログラムをWindowsサービスとしてインストールしない（コマンドプロンプトから実行する）場合、スポーナプログラムを起動するWindowsユーザーIDはローカルのAdministratorで、以下のユーザー権限を持っている必要があります。

- オペレーティングシステムの一部として機能
- 走査チェックのバイパス（デフォルトはEveryone）
- クォータの増加
- プロセスレベルトークンの置き換え
- ローカル ログオン（デフォルトはEveryone）

サインオン時に指定するWindowsのユーザーIDには、「バッチジョブとしてログオン」のユーザー権限のみが必要です。

## 第4章 SAS Enterprise Minerの設定

この章では、Enterprise Miner 4.3の設定手順について説明しています。SAS Enterprise Miner 5.2の設定手順の詳細は、『SAS Intelligence Platform: Administration Guide』の「Preparing Enterprise Miner for Use」を参照してください。

### Enterprise Miner Server のインストール

すでにEnterprise Minerのライセンスを取得し、インストールが終了しているなら、Enterprise Minerのサーバーコンポーネント(これをEnterprise Miner serverといいます)はインストールされています。

Enterprise Miner Serverは、SAS/CONNECTを利用して、Enterprise Miner Clientから起動します。Enterprise Minerの実行についての詳細は、『Getting Started with the Enterprise Miner Software Release 4.3』と『Enterprise Miner Software: Changes and Enhancements, Release 4.3』を参照してください。

**注意：** Enterprise Minerを使用するには、SAS 9.1.3 FoundationにおいてSAS/CONNECTの設定が必要です。5ページの『3章 SAS/CONNECTの設定』を参照し、手順に従ってSAS/CONNECTを正しく設定したかどうかを確認してください。

### Enterprise Miner Server の設定

#### デフォルトデータライブラリの設定

Enterprise Miner Clientのユーザーに対して読み取り権限と書き込み権限があるデータライブラリを、サーバー上に割り当ててください。このライブラリはSASROOTの場所とは異なるディレクトリに割り当てます。可能ならば、SASROOTとは異なるドライブにあると理想的です。データライブラリを割り当てるには、ディスク上に適切な権限と所有者が設定されたディレクトリを作成または指定する必要があります。これにより、リモートユーザーがデータライブラリにアクセスして読み取り／書き込みを行うことができます。

#### Enterprise Miner Client の設定のための情報を提供

Enterprise Miner Clientの設定に必要な以下の情報を、Enterprise Miner Clientユーザーに提供してください。

- サーバーのホスト名およびIPアドレス
- SAS 9.1.3 FoundationとSAS/CONNECTの起動方法
- デフォルトのリモートデータライブラリのアクセス方法

**注意：** UNCパス名は使用できません。

## Enterprise Miner 4.3 Client の起動方法

Enterprise Miner Clientは、Windows版SAS 9.1.3から起動できます。SAS 9.1.3を起動した後、以下の方法でEnterprise Minerを起動できます。

- メニューバーから [ソリューション] - [データ解析] - [エンタープライズマイナー] を選択します。
- コマンドバーに、「miner」と入力します。

## クライアント/サーバープロジェクト用 Enterprise Miner Client の設定

クライアント/サーバープロジェクト用Enterprise Miner Clientの設定方法については、『Getting Started with Enterprise Miner 4.3』の「Creating a Client-Server Project」を参照してください。

Enterprise Minerの実行についての詳細は、『Getting Started with Enterprise Miner 4.3』と『Enterprise Miner 4.3: Changes and Enhancements』を参照してください。

## Enterprise Miner C\*Score 用 SAS スタンドアロンフォーマット

**注意：**この機能は日本語データに対応していません。

Enterprise Miner C\*Scoreを使用するには、スタンドアロンフォーマットが必要です。スタンドアロンフォーマットは、SASソフトウェアパッケージに同梱されたSAS Client-Side Components CDに収録されています。SAS形式を含むデータのモデル化を行うとき、DATAステップスコアコードは、データを正規化して比較するときにSAS形式を使用します。その結果、データステップコードから作成されたスコアリングコードは、これらの形式への呼び出しを含みます。

SAS形式は、SAS Standalone Formatsライブラリを使用することによって、Enterprise Miner C\*Scoreで生成されるCコードでサポートされます。Cスコアリングコードを実行するプラットフォームにSASスタンドアロンフォーマットをインストールするには、次の操作を行います。

1. SASソフトウェアパッケージに同梱されているSAS Client-Side Components CDを用意します。CDを挿入します。ご使用のプラットフォームによってマウント方法が異なる場合がありますので、ケースの内側に記載されている手順に従ってください。
2. ブラウザを起動し、CDのrootディレクトリにあるindex.htmlページを表示します。
3. index.htmlページから、Standalone Formatsリンクを選択します。
4. Cスコアリングコードを実行しているプラットフォームを選択します。関連する手順に従って、プラットフォームにSASスタンドアロンフォーマットをインストールします。

## 第 5 章 SAS Integration Technologies の設定

SAS Integration Technologiesが選択された状態でSAS 9.1.3 Foundationをインストールした場合、SAS Integration TechnologiesのSASサーバーコンポーネントが自動的にインストールされます。

パッケージに同梱されている SAS Client-Side Components CDには、SAS Integration TechnologiesのSAS Integration Technologiesクライアントコンポーネントとドキュメントが収録されています。

## 第 6 章 SAS/IntrNetの設定

SAS/IntrNetが選択された状態でSAS 9.1.3 Foundationをインストールした場合、SAS/IntrNetのSASサーバーコンポーネント（SAS/IntrNetサーバーと呼ばれます）が自動的にインストールされます。

パッケージに同梱されているSAS Client-Side Components CDIには、SAS/IntrNetのSAS/IntrNetクライアントコンポーネントとドキュメントが収録されています。



## 第7章 SAS IT Service Level Management 2.1 のインストール

SAS IT Service Level Management Serverのインストールと設定に関するドキュメントは、SAS IT Management Client ComponentsのCDのSAS IT Service Level Management Clientの一部として含まれています。このCDは、SASインストールキットにあります。

## 第8章 メタベース機能の設定

SAS 7以降において、SAS/EISメタベース機能が新しく共通メタデータリポジトリ (Common Metadata Repository) に変更されました。共通メタデータリポジトリは、一般的用途に使用されるメタデータ管理機能で、さまざまなメタデータ方式のアプリケーションに、一般のメタデータサービスを提供します。

共通メタデータリポジトリを使用するには、初期設定が完了していることが必要です。旧リリースでリポジトリマネージャが設定されていた場合、もう一度設定し直す必要はありません。メタベース機能を使用するには、次のセクションで説明する手順にしたがって設定する必要があります。SAS 7より前のリリースでメタベース機能を使用していたユーザーが共通メタデータリポジトリを使用するには、変換が必要です。詳細は、SAS OLAP Serverオンラインヘルプ中の「V8 SAS OLAP Server」にある「Converting Legacy Metabases」を参照してください。

### システムリポジトリマネージャファイルの設定

必要なシステムリポジトリマネージャファイルを設定するには、以下の操作を行います。システムリポジトリマネージャを指定するには、SASHELPへの書き込み権限が必要です。

**注意：** この処理によって、自分のサイトにおけるリポジトリマネージャのデフォルトの場所が設定されます。各ユーザーは、下記の手順でユーザーごとに異なったりポジトリマネージャの場所を指定してください。その際、[システムリポジトリに値を書き込む] チェックボックスは選択しません。

- 1 リポジトリマネージャファイルだけを保存するディレクトリを作成します。たとえば、ISASROOT¥RPOSMGRなどです。

このディレクトリにその他のSASファイルを保存しないでください。

- 2 SASコマンド行に「REPOSMGR」と入力し、[リポジトリマネージャの設定] を選択します。
- 3 [リポジトリマネージャの設定] ウィンドウで、RPOSMGRのデフォルトはLibraryに設定されています。パスに手順1で作成したパスを指定し、[システムリポジトリに値を書き込む] チェックボックスを選択します。[OK] を選択します。
- 4 表示されたダイアログボックスで [はい] を選択し、必要なリポジトリマネージャファイルを作成します。

これで、システムリポジトリマネージャの設定が完了しました。手順1～手順4を繰返し、リポジトリマネージャ (ユーザーリポジトリマネージャなど) を追加できます。その際、手順1で異なるパスを指定します。

## リポジトリマネージャでの SASHELP リポジトリの登録

SASHELPリポジトリは、SAS/EISレポートギャラリーテンプレートなど、さまざまなサンプルで使用されます。以下の操作を行う前に、リポジトリマネージャを作成する必要があります（前のセクションを参照）。リポジトリマネージャで、SASHELPリポジトリを登録するには、次の操作を行います。

- 1 SASコマンド行に「REPOSMGR」と入力し、[リポジトリの登録] を選択します。
- 2 [リポジトリの登録] ウィンドウで、[新規作成] を選択します。
- 3 [リポジトリの登録（新規作成）] ウィンドウの [リポジトリ名] に「SASHELP」と大文字で入力し、[パス] にCOREカタログが保存されているディレクトリのフルパスを入力します。

```
!SASROOT¥CORE¥SASHELP
```

- 4 [説明] に、適当な説明を入力します（例：SASHELPリポジトリ）。[OK] を選択し、[リポジトリの登録（新規作成）] ウィンドウを閉じます。[閉じる] を選択し、[リポジトリの登録] ウィンドウを閉じます。

**注意：** パスに連結ディレクトリを指定できないので、リポジトリは複数のディレクトリにまたがって登録することはできません。既存のメタベースが連結ディレクトリに保存されている場合、メタベースを1つのパスにコピーし、それをリポジトリとして参照してください。

## SAS 6 の SAS/EIS メタベースを SAS 8 のリポジトリに変換する

SAS 6のメタベースをSAS 8のリポジトリに変換する方法は、SAS/EISのオンラインヘルプの「Converting legacy metabases」を参照してください。

## 第9章 NLS (National Language Support) の設定

この章では、アジア・ヨーロッパ言語サポートの設定について説明します。

**重要：** 他言語にローカライズされたSASを実行するには、Windowsオペレーティングシステムの地域設定が適切な言語に設定されている必要があります。Windowsの地域の設定と、ローカライズされた言語が一致しない場合、予期しない結果を得る可能性があります。

異なる複数の言語バージョンをインストールした場合、SASイメージを起動する前に、それぞれ適切な地域の設定に変更する必要があります。地域の設定の使用および変更方法についての詳細は、Microsoft Windowsのマニュアルを参照してください。

### 中国語、日本語、韓国語の DBCS サポート

このセクションでは、DBCSLANGシステムオプションとDBCSTYPEシステムオプションのデフォルト設定を変更し、アジア言語用フォントカタログを指定する方法について説明します。

**注意：** アジア文字セット用のロケールだけを設定するには、DBCSLANGシステムオプションとDBCSTYPEシステムオプション（次のセクションを参照）を使用する必要があります。ヨーロッパ言語用ロケールを設定するには、LOCALEシステムオプションとENCODINGシステムオプション（SASシステムヘルプを参照）を使用します。

### デフォルトの DBCSLANG と DBCSTYPE オプション設定の変更

SAS 9.1.3 Foundationのインストール時にNLS言語の翻訳を読み込む場合、選択した言語とプラットフォームに基づいて、DBCSLANGシステムオプションとDBCSTYPEシステムオプションのデフォルト値が自動的に設定されます。たとえば、Windows 2000でデフォルトで使用する言語を日本語でインストールする場合、構成ファイル（!sasroot%\nls\ja\sasv9.cfg）のDBCSLANGを「JAPANESE」に、DBCSTYPEを「PCMS」に設定します。

### Unicode サーバーのための構成ファイルの変更

Unicodeサービスを実行するには、構成ファイルの以下の事項を修正します。

- 1 構成ファイル中のDBCSLANGとDBCSTYPEオプションを削除します。
- 2 ENCODINGオプションを追加し、値をUTF8に設定します（ENCODING=UTF8）。
- 3 デフォルトが英語以外のサイトでは、LOCALEオプションを追加し、そのサイトで使用するデフォルトの値を設定します（LOCALE=ローカルサイトのデフォルト値）。

### アジア言語用フォントカタログ

アジア言語版用のデフォルトの構成ファイルには、フォントがすでに定義されています（ただし、DBCS機能を利用するための構成ファイルには、フォントが定義されていません）。アジア言語用フォントカタログは、インストール時に、言語別のサブディレクトリに保存されます。

フォントカタログを変更するには、構成ファイルの内容を変更するか、SASセッションで変更します。

中国語繁体字フォントを除いて、アジア言語用フォントはSASHELP.FONTSカタログにあります。中国語繁体字用の構成ファイルは、フォントカタログがすでに定義されています（ただし、DBCS機能を利用するための構成ファイルには、フォントが定義されていません）。中国語繁体字を使用するには、それらを構成ファイルもしくはSASセッションで指定します。

## 中国語繁体字フォントのインストール

中国語繁体字フォントを使用するには、中国語繁体字版をインストールする必要があります。また、次に説明するように構成ファイルを変更する必要があります。

### 中国語繁体字フォントのための構成ファイルを使用したフォントカタログの指定

中国語繁体字版を実行しないが中国語繁体字フォントを使用したい場合、構成ファイルでGFONTxを次のように指定します。

```
-set gfontx !SASROOT/nls/zt/font-name
```

ここで、変数には次の値を入力します。

- *x*: 0~9の値
- *font-name*: フォントカタログ名

### 中国語繁体字フォントのための SAS セッションを使用したフォントカタログの指定

SASセッションを使用してフォントカタログを指定するには、次のLIBNAMEステートメントを実行します。

```
-libname gfontx !sasroot%nls%langcode%font-name
```

ここで、変数には次の値を入力します。

- *x*: 0~9の値
- *font-name*: フォントカタログ名

## ヨーロッパ言語サポート (ELS)

以下では、システムでロケールを設定する方法を説明し、リモートセッションヘデータを移送するローカルセッションの設定方法を解説し、ロケールに一致するdevmapとkeymapの値を、オペレーティングシステム別に示します。

### SAS 9.1.3 におけるロケールの設定

SASセッションを使用してデフォルト以外のロケールを設定するには、2通りの方法があります。このセクションでは、これらの方法について説明します。

## デフォルトの LOCALE オプション設定の変更

SAS 9.1.3 Foundationは、インストール時にNLS言語が選択されていると認識した場合、LOCALEシステムオプションを、インストールした言語のデフォルト値に自動的に設定します。LOCALEオプションは、インストールした各言語のシステム構成ファイル内で設定されます。

たとえば、!SASROOT¥nls¥fr¥sasv9.cfgは、LOCALEがフランス語に設定されています。

SASのデフォルトのロケール設定を変更する場合は、システム構成ファイル内のLOCALEシステムオプションを適切な言語に設定します。

たとえば、!SASROOT¥nls¥fr¥sasv9.cfg内の-locale Frenchを、-locale French\_Canadianに変更します。

## 異なるロケールで SAS を実行する

ユーザー側サイトでSAS 9.1.3のロケールを設定するには、LOCALEシステムオプションを構成ファイルに追加します。ロケール値のリストは、『SAS 9.1 National Language Support (NLS) User's Guide』に記載されています。

ファイルの読み取り/書き込みを行うとき、SAS 9.1.3では、外部ファイル内のデータがセッションエンコーディングで表されます。異なるエンコーディングを指定するには、FILENAME、INFILE、FILE ステートメント内のENCODINGシステムオプションを使用します。詳細は、『SAS 9.1 National Language Support (NLS) Use's Guide』を参照してください。

LOCALEを設定すると、ENCODINGシステムオプションが、ロケールの言語をサポートするエンコーディングに設定されます。SAS 9.1.3では、ユーザーデータがENCODINGオプションと一致するエンコーディングで表されます。ロケールに対して最も一般的なエンコーディング以外のエンコーディングを使用する場合、構成ファイル内のENCODINGシステムオプションを設定します。

ENCODINGオプションを設定すると、ENCODINGシステムオプションと一致するTRANTABオプションが設定されます。SASデータファイルを移送するには、CPORTプロシージャとCIMPORTプロシージャで、TRANTABオプションによって設定される移送形式変換テーブルを使用します。また、UPLOADプロシージャとDOWNLOADプロシージャでもこれらの変換テーブルを使用してファイルやカタログを転送したり、サーバーに対してプログラムのリモートサブミットをしたり、クライアントにログと出力結果を返したりします。

ODS (Output Delivery System) は、ENCODINGシステムオプションに一致するエンコーディングを使用してアウトプットを作成します。異なるエンコーディングを使用してアウトプットを作成するには、ODSのマニュアルを参照してください。

詳細は、『Base SAS 9.1 Procedures Guide』のCPORTプロシージャとCIMPORTプロシージャに関するセクションを参照してください。UPLOADプロシージャとDOWNLOADプロシージャについては、『SAS/CONNECT 9.1 User's Guide』を参照してください。

## 追加情報

実行するアプリケーションによって、追加のシステム設定が必要な場合があります。代替ロケールで実行するためのシステム設定については、以下のセクションを参照してください。

### リモートサーバーでのロケールの設定

**注意：** %LSマクロはSAS 9.1.3での新しいマクロです。このマクロは、以前のリリースで使用されていた [ロケール設定] ウィンドウの機能を置き換えます。下記でSAS 9に対して述べている内容は、SAS 9以降のすべてのリリースのSASに関係します。

クライアントとサーバーセッションの両方で実行しているSASがSAS 9の場合、どのようなロケール設定を行う場合にも、%LSマクロを実行する必要はありません。サーバーのロケールが、クライアントセッションのロケールに合わせて変更されます。変更できなかった場合、データに問題が発生します。

SAS 9クライアントで以前のリリースのSASが動作しているSASセッションに接続している場合、データ移送用にリモートSAS環境を設定するのに%LSマクロを使用することができます。以前のリリースでは [ロケール設定] ウィンドウを使用しましたが、%LSマクロは、LOCALEカタログからSASUSER.PROFILEにhost-to-host変換テーブルをコピーします。

SAS/CONNECTを使用してリモートSASサーバーに接続する場合、SASクライアントが使用しているロケールに合わせてサーバーセッションを設定する必要があります。クライアントからリモートセッションにサインオンした後、サーバーを設定する必要があります。

次の例では、リモート接続のためのロケール設定の方法を示しています。

**SAS 9からSAS 9への接続：** 起動時にLOCALEオプションを使用します。SASクライアントのLOCALEオプション値とサーバーセッションは、同じになります。例を次に示します。

```
sas -locale Spanish_Spain
```

**SAS 9と以前のリリースのSASとの接続：**

- SAS 9がデータを受け取る場合：起動時に、SAS 9側でLOCALEオプションを使用します。例を次に示します。

```
sas -locale Spanish_Mexico
```

- 以前のリリースのSASがデータを受け取る場合：LOCALEオプションを指定してSAS 9を起動します。例を次に示します。

```
sas -locale Spanish_Guatemala
```

接続が確立されてから、以前のリリースのSASでhost-to-host変換テーブル設定するため、SAS 9側で%LSマクロを使用します。たとえば、次のプログラムをサブミットしてください。

```
%ls(locale=Spanish_Guatemala, remote=on);
```

## SAS/GRAPH のための Devmap と Keymap

SAS/GRAPHを使用して非アスキー文字を表示する場合、使用している環境のエンコードに一致する適切なdevmapとkeymapを使用する必要があります。必要なdevmapエントリとkeymapエントリは、SASHELP.LOCALEカタログに含まれています。正確なdevmapとkeymapを設定するには、%LSGRAPHマクロを使用します。

%LSGRAPHマクロで自動的に設定する方法は、次の2通りあります。

- 環境に一致するdevmapとkeymapエントリを、GFONT0.FONTSIにコピーする。
- devmapとkeymapが読み込まれるように、エントリ名をDEFAULTに変更する。

次の例では、Windows環境でポーランドのユーザーが正しいdevmapとkeymap (WLT2) を設定するのに、%LSGRAPHを使用しています。

```
libname gfont0 'your-font-library';  
%lsgraph(wlt2);
```

次の表は、各言語のロケールに一致するdevmapとkeymapのリストです。



地域	Devmapと Keymapの名前
Arabic_Algeria	wara
Arabic_Bahrain	wara
Arabic_Egypt	wara
Arabic_Jordan	wara
Arabic_Kuwait	wara
Arabic_Lebanon	wara
Arabic_Morocco	wara
Arabic_Oman	wara
Arabic_Qatar	wara
Arabic_SaudiArabia	wara
Arabic_UnitedArabEmirates	wara
Arabic_Tunisia	wara
Bulgarian_Bulgaria	wcyr
Byelorussian_Belarus	wcyr
Croatian_Croatia	wlt2
Czech_CzechRepublic	wlt2
Danish_Denmark	wlt1
Dutch_Belgium	wlt1
Dutch_Netherlands	wlt1
English_Australia	wlt1
English_Canada	wlt1
English_HongKong	wlt1
English_India	wlt1
English_Ireland	wlt1
English_Jamaica	wlt1
English_NewZealand	wlt1
English_Singapore	wlt1
English_SouthAfrica	wlt1
English_UnitedKingdom	wlt1
English_UnitedStates	wlt1
Estonian_Estonia	wbal
Finnish_Finland	wlt1
French_Belgium	wlt1
French_Canada	wlt1
French_France	wlt1
French_Luxembourg	wlt1
French_Switzerland	wlt1
German_Austria	wlt1
German_Germany	wlt1
German_Lichtenstein	wlt1
German_Luxembourg	wlt1

地域	Devmapと Keymapの名前
German_Switzerland	wlt1
Greek_Greece	wgrk
Hebrew_Israel	wheb
Hungarian_Hungary	wlt2
Icelandic_Iceland	wlt1
Italian_Italy	wlt1
Italian_Switzerland	wlt1
Latvian_Latvia	wbal
Lithuanian_Lithuania	wbal
Norwegian_Norway	wlt1
Polish_Poland	wlt2
Portuguese_Brazil	wlt1
Portuguese_Portugal	wlt1
Romanian_Romania	wlt2
Russian_Russia w	cyr
Serbian_Yugoslavia	wcyr
Slovakian_Slovakia	wlt2
Slovenian_Slovenia	wlt2
Spanish_Argentina	wlt1
Spanish_Bolivia	wlt1
Spanish_Chile	wlt1
Spanish_Colombia	wlt1
Spanish_CostaRica	wlt1
Spanish_DominicanRepublic	wlt1
Spanish_Ecuador	wlt1
Spanish_ElSalvador	wlt1
Spanish_Guatemala	wlt1
Spanish_Honduras	wlt1
Spanish_Mexico	wlt1
Spanish_Nicaragua	wlt1
Spanish_Panama	wlt1
Spanish_Paraguay	wlt1
Spanish_Peru	wlt1
Spanish_PuertoRico	wlt1
Spanish_Spain	wlt1
Spanish_UnitedStates	wlt1
Spanish_Uruguay	wlt1
Spanish_Venezuela	wlt1
Swedish_Sweden	wlt1
Turkish_Turkey	wtur
Ukrainian_Ukraine	wcyr

## 第 10 章 SAS OLAP Serverの設定

SAS OLAP Serverには、SAS上で実行するコンポーネントとは独立した、クライアントサイドコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントは、SAS Client-Side Components CD Volume 1に含まれています。

SAS OLAP Cube StudioとSAS OLAP Server Monitorの使用方法的詳細は、SAS 9.1のヘルプまたはマニュアルで提供している『SAS OLAP Server Administrators Guide』を参照してください。Open OLAP Clientの詳細は、SAS OLAP Serverのオンラインヘルプを参照してください。オンラインヘルプには、SAS 8のOpen OLAP Serverの設定に関する詳細も含まれています。

### Open OLAP Client for SAS/MDDDB Server 3.0

SAS OLAP Serverには、OLE DBプロバイダ、Open OLAP Serverが含まれています。Open OLAP Serverを使用すると、Windows上のOLE DBおよびADO互換のアプリケーションから、SAS上のMDDDBデータのアクセス、更新、操作ができます。

SAS MDDDBにアクセスするのにOpen OLAP Serverを使用するなら、Open OLAP Clientのみをインストールします。このコンポーネントは、OLE DB互換アプリケーションを実行するWindows上にインストールしなければなりません。

### SAS OLAP Cube Studio

SAS OLAP Cube Studioは、SAS OLAP Serverのコンポーネントで、企業内でOLAP Cubeの構築とメンテナンスを担当するIT技術者のために開発されました。SAS OLAP Cube Studioは、SAS OLAP環境をメンテナンスするのに必要なツールを提供するために、SAS管理コンソールとSAS Data Integration Studioを統合します。

SAS OLAP Cubeの作成とメンテナンスを行うのならば、SAS OLAP Cube Studioをインストールする必要があります。Cubeを作成するのに使用するWindows上に、コンポーネントをインストールしなければなりません。

### SAS 管理コンソールの SAS OLAP Server Monitor

SAS OLAP Server Monitorは、SAS管理コンソールのプラグインコンポーネントです。SAS OLAP Server Monitorは、SAS OLAP Serverの実行状況を監視するのに使用します。

SAS OLAP Serverの実行状況を監視するには、SAS OLAP Server Monitorをインストールする必要があります。コンポーネントは、SAS管理コンソールがインストールされているWindows上にインストールしなければなりません。

## 第 11 章 SAS/SECURE クライアントコンポーネントのインストール

SAS/SECUREは、暗号化された安全な環境で、非SASクライアントアプリケーションがSASサーバーと通信するのに使用できるクライアントコンポーネントを含んでいます。非SASクライアントと、SAS/SECUREライセンスを持つSASサーバー間の通信を暗号化するには、クライアントマシン上に、SAS/SECUREクライアントコンポーネントをインストールする必要があります。SAS/SECUREクライアントコンポーネントは、SAS Software Navigatorを使用してインストールを行い、アクセス可能なSAS/SECUREフォルダに置いて使用します。

**注意：** このインストールは、SASをクライアントとしてインストールする場合は必要ありません。SASは、インストール処理の一部としてコンポーネントをインストールします。

### SAS/SECURE for Windows Clients

Windowsクライアントに必要なSAS/SECUREコンポーネントは、SAS Software Navigatorによってインストールされます。secwin.exeは、CryptoAPIアルゴリズムを使用するIOM Bridge for COMで必要なファイルをインストールします。

### SAS/SECURE for Java Clients

JavaクライアントのためのSAS/SECUREコンポーネントは、Javaアプリケーションのための暗号化機能を提供します。次のコンポーネントを使用して作成したアプリケーションに組み込むことで、暗号化機能が利用できます。

- JDBC用SAS/SHAREドライバ
- Java用SAS/CONNECTドライバ
- Java用IOM Bridge

Javaクライアントに必要なSAS/SECUREコンポーネントは、SAS Software Navigatorによってインストールされます。このフォルダは、JavaクライアントがCryptoAPIアルゴリズムを使用可能にする2つのJARファイルを含んでいます。

- sas.rutil.jar – 実行しているクライアントを起動する場所にコピーする必要があります。
- sas.core.jar – Javaクライアントを利用している場合、すでにインストールされているので必要ありません。

sas.rutil.jarは、次のプロダクトをインストールした場所にコピーしなければなりません。下記に、それぞれのデフォルトのインストール場所を示します。

- SAS MC : <SAS\_HOME>\¥SASManagementConsole¥9.1
- OLAP Cube Studio : <SAS\_HOME>\¥SASOlapCubeStudio¥9.1
- SAS Data Integration Studio : <SAS\_HOME>\¥SASETLStudio¥9.1
- SAS Information Map Studio : <SAS\_HOME>\¥SASInformationMapStudio¥1.0

例にある<SAS\_HOME>は、SAS Software Navigatorから指定されます（デフォルトの場所は、C:\Program Files\SASです）。

必要とするところにコピーした後、sasproprietary以外のアルゴリズムを使用することができます。

## 第 12 章 SAS/SHARE の設定

この章では、SAS/SHAREで利用できるアクセス方式について説明します。

詳細は、『Communications Access Methods for SAS/CONNECT and SAS/SHARE Software』を参照してください。このドキュメントは、次のサイトから入手できます。

<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/>

SAS/SHAREサーバーとユーザー間の通信は、通信アクセス方式によって処理されます。通信アクセス方式はSAS 9.1.3 Foundationの一部で、下層の通信ソフトウェアを使用してメッセージのデータを交換します。現リリースの64-bit Windows版SAS/SHAREでは、TCP/IPアクセス方式を使用します。

TCP/IPアクセス方式を使用するには、SAS/SHAREサーバーまたはユーザーを実行する各ワークステーション上に、TCP/IPアクセス方式をサポートするソフトウェアがインストールされている必要があります。TCP/IPが必要とする通信ソフトウェアは、Microsoft社のWindows TCP/IPネットワークプロトコルです。

### TCP/IP アクセス方式のシステム設定

#### 必要なソフトウェア

TCP/IPアクセス方式として、SAS/SHAREでは、Microsoft社のWindows TCP/IPネットワークプロトコルをサポートします。

#### TCP/IP SERVICES ファイルを使用したサーバー名の定義

次の操作を行います。

- 1 SERVICESファイルを探します。

このファイルは%windowsまたは%winntにあります。どちらにあるかはオペレーティングシステムによって異なります。たとえば、Windows 2000では次の場所にあります。

```
<drive letter>:%winnt%\system32\drivers\etc
```

- 2 サーバー名を指定し、ポートを割り当てます。

ネットワーク上で実行するSAS/SHAREサーバーは、SERVICESファイル内でそれぞれサービスとして定義する必要があります。SERVICESファイル内の各エントリは、ポート番号が割り当てられたサービス名とプロトコルを結び付けます。SAS/SHAREサーバーは、次の形式で入力します。

```
<server name> <port number>/<protocol> # <comments>
```

サーバー名は、1～8文字で指定します。最初の文字には、アルファベットまたはアンダーライン ( \_ ) を使用します。その他の文字には、アルファベット、数字、アンダーバー ( \_ )、ドル記号 ( \$ )、アットマーク ( @ ) を使用します。1024以下のポート番号は予約済みなので、ポート番号には1025以上を指定します。プロトコルにはTCPを指定します。

たとえば、MKTSEVという名前のサーバーは、次のように入力できます。

```
mktsev 5000/tcp # SAS server for Marketing and Sales
```

サーバー名は、サーバーのSASセッションにおいて、PROC SERVERステートメント内のSERVER=オプションを使用して指定します。また、ユーザーおよびサーバーの管理者プログラムにおいて、PROC OPERATEステートメントとLIBNAMEステートメント内のSERVER=オプションを使用して指定します。SERVICESファイルにサーバー名が定義されていない場合、「\_\_ポート番号#」を使用しなければなりません。たとえば、server=\_\_5012のようになります。

PROC SERVERステートメント、PROC OPERATEステートメント、LIBNAMEステートメントのオプションについては、『SAS/SHARE 9.1 User's Guide』を参照してください。

## クライアント側のコンポーネント

SAS/SHAREには、SASとは独立した、クライアント側のコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントはSAS Client-Side Components CDIに含まれています。内容は次に説明します。

### SAS/SHARE データプロバイダ

SAS/SHAREデータプロバイダにより、WindowsプラットフォームでOLE DBおよびADO互換アプリケーションを使用して、SASデータのアクセス、更新、操作を行うことができます。

### SAS ODBC ドライバ

SAS/SHAREデータプロバイダにより、WindowsプラットフォームでOLE DBおよびADO互換アプリケーションを使用して、SASデータのアクセス、更新、操作を行うことができます。

### JDBC 用 SAS/SHARE ドライバ

JDBC用SAS/SHAREドライバを使用して、SASデータにアクセス/更新するアプレット、アプリケーション、サーブレットを作成できます。JDBC用SAS/SHAREドライバを含むJava Toolsパッケージには、Java用SAS/CONNECTドライバも含まれています。これらのインターフェイスを使用して、Javaプログラムを作成する場合は、トンネル機能も併せて使用してください。Javaアプレットにトンネル機能を使用すると、セキュリティに関する一般的な問題を解決できます。

### C 言語用 SAS/SHARE SQL ライブラリ

SAS SQL Library for Cによって提供されるAPI (application programming interface) を使用すると、SAS/SHAREサーバーを介して、リモートホストにSQLクエリとステートメントを送信できます。

## NLS 情報

SAS/SHAREを使用してアジア・ヨーロッパ言語アプリケーションを開発またはサポートする場合は、14ページの「NLS (National Language Support) の設定」を参照してください。



THE  
POWER  
TO KNOW.

**[support.sas.com](https://support.sas.com)**

SAS is the world leader in providing software and services that enable customers to transform data from all areas of their business into intelligence. SAS solutions help organizations make better, more informed decisions and maximize customer, supplier, and organizational relationships. For more than 30 years, SAS has been giving customers around the world The Power to Know®. Visit us at **[www.sas.com](https://www.sas.com)**.



英語版更新日 April 24 2007

## **64-bit Microsoft® Windows® (Itanium) 版SAS® 9.1.3 Foundation 設定ガイド**

2007年6月8日 第3版第13刷発行 (913M18)

発行元 SAS Institute Japan株式会社

〒106-6111 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー11階

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

**TEL: 03(6434)3680 FAX: 03(6434)3681**